

# 稲畑産業株式会社 2023年3月期決算 オンライン決算説明会 質疑応答要旨

日時 : 2023年6月5日(月) 13:00~14:00

説明者 : 稲畑社長

## 【コンパウンド事業の設備投資】(資料 P44)

Q : 樹脂コンパウンドの生産拠点のうち、年間生産能力が、昨年12月の説明会資料と比べて変わった国がある。具体的には、マレーシアが1,200トン、フィリピンが2,000トン増加した反面、インドネシアが4,200トン、タイが1,200トン減少している。この6カ月間に設備の削減、増強の動きがあったのか。また、今後、設備増強などの計画があればいかがか。

A : マレーシア、フィリピンについては、設備の更新の中で、結果的に効率が上がり生産量が増加した。一方で、インドネシアはある程度、年数の経った工場であり、適宜、古い設備を入れ替える中で、ある程度の合理化を図っている。特にインドネシアについては、従来の輸出向けから、例えば自動車業界や、国内の白物家電向けといった内需向けの比率が増えてきている。そのような中で、設備を入れ替えた結果、若干生産能力が減っている。タイについてもほぼ同様で、向け先や用途に応じて設備を入れ替える中で、結果的に、キャパが若干落ちたということだと捉えている。メキシコは、22年度の上期に1ラインの増設を完了した。これに伴い、生産能力は、従来の1万5,000トンから2万2,000トン余りまで増えている。24年3月期の投資は、具体的に決定したら追って公表する。

## 【将来の成長に向けた投資の積極化】(資料 P15、31)

Q : 「NC2023」で将来の成長に向けた投資の積極化を掲げているが、重点投資分野への投資検討は進んでいるか。

A : 当社は従来、どちらかといえば、オーガニックな成長を目指してきた。オーガニックな成長は基本ではあるものの、特にこの中期計画の期間中においては、従来に比べて積極的に投資を行っていきたいと表明しており、そのような態勢も整えてきた。例えば2年ほど前に、事業企画室という専門部署を立ち上げ、具体的な投資案件の探索や精査も、かなりスピードアップして行っている。既に公表済だが、最近の投資案件としては、まず米国におけるリチウムイオン電池の関連材料に関する新会社の設立への参加が挙げられる。

環境関連では、特にバイオマス発電関連について、中小型の案件を中心に、積極的に投資を検討したり、実施したりしているが、23年3月期においても、一つ案件を実施することができた。それから、これも既に公表済みだが、食品加工関連の大五通商という会社の子会社化を進めている。今後も、投資案件を積極的に探索、検討していきたい。

#### 【株主還元】（資料 P19）

Q：総還元性向の目安として50%程度を掲げているが、2024年3月期も変更はないか。

A： 変更はない。配当については、累進配当の方針に基づき、24年3月期は、前期比5円増の120円を計画している。24年3月期の利益が計画どおりであれば、配当性向としてはおよそ32%になる。自己株式の取得については、既に今年の2月に公表しているが、2月10日から7月末にかけて、120万株または40億円という金額を上限に、自己株式の取得を実施中である。5月末の実績としては、およそ4分の3にあたる87万株余りを、既に取得済みである。今後の増配、あるいは自己株式の取得については、今期の利益の見通し、成長投資等の資金需要、また政策保有株式の売却状況等々、いろいろなファクターを総合的に勘案し、総還元性向50%を目安とした上で判断し、決定次第、速やかに公表させていただきたい。

#### 【情報電子事業の事業環境見通し】（資料 P9）

Q：情報電子セグメントのフラットパネルディスプレイ関連商材について、2024年3月期の事業環境と回復時期の見通しを教えてください。

A： 終わった期（2023年3期）に、非常に苦戦したのがこの分野であり、回復までは少し時間がかかると認識している。2024年3月期の出荷台数について、アプリケーション別にみると、テレビに関しては前年並み、99%程度とみている。ノートパソコン、ノートブック、それからモニター、タブレットに関しては、依然として減少傾向、前年比で94%程度というのが今の見通しである。昨年、スマートフォンは、非常に調子が悪かったが、今期は若干のプラス、103%程度が、今の見通しである。ただ、スマートフォンはディスプレイの面積ではそれほど比率は高くないので、全体として、稼働はまだ大きな改善には至らないと見ている。足元では在庫の消化が進み、パネルメーカーの稼働率も最悪期に比べると戻ってはきているものの、本格的な回復には、もう少し時間がかかると見ており、当社の今年度の計画も、そのような見通しに基づいた計画となっている。

### 【人的資本活用に対する考え方】（資料 P24）

Q：人的資本活用に向けた注目が高まっている。そのような中で、御社は最近、人的資本活用にに向けたさまざまな取り組みを進めているが、考え方の基本となるものは何か。

A： 考え方の基本は、これは当社の社是である「愛」「敬」の精神ということになるかと思う。「人を愛し、敬う」、そういう「愛」「敬」を、当社は社是として掲げているが、この基本精神に沿った取り組みが、基本となるのではないかと考えている。ただ、愛し敬う対象の人間について、われわれはしっかりと知る必要があると考えており、その人間が必ずしも一様ではないということを理解する必要がある。一つは、グローバル展開を進めている中で、色々な国の人たち、多様な考え方が入ってきており、そうした多様性を理解しなければいけない。一方で、コロナ禍で加速したように、世の中の価値観が大きく変遷してきている。われわれがこうだと思っていた価値観は、時間がたてば違う、正解ではなくなることもあると理解している。こういった多様性や価値観の変化を知る上で、例えばエンゲージメントサーベイという取り組みを実施している。このエンゲージメントサーベイの結果から、全体としての傾向を読み取る中で、われわれ自身が打っていくべき施策を考え、辛抱強く、継続的に打っていくことで、従業員の会社に対する信頼度も高まってくると考えている。また、例えば、[従業員持株会向け譲渡制限付株式インセンティブ制度の導入](#)など、目に見える形でも訴求を図っており、会社に対するエンゲージメント向上、社員のモチベーション向上を通じた人的資本の拡充も図っていきたいと考えている。

以上